

大阪樟蔭女子大学図書館報

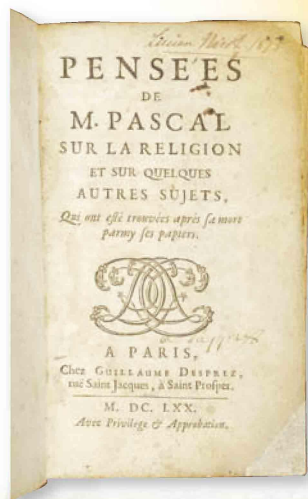
こかげ



2009.4 第3号



パスカル「パンセ」
初版、1670年
(ポール・ロワイヤル版)
本学図書館蔵



- 何のために学ぶのか
(児童学部児童学科教授) 石川 義之… 2
- 専門図書館を訪ねてみませんか
(学芸学部インテリアデザイン学科教授) 一 棟 宏 子… 3
- 海外図書館事情 Seattle Public Library
(学芸学部英米文学科講師) アン・マエダ… 4
- 読書感想文
現代の日本で「生きる」ということ
(学芸学部国文学科3回生) 南 川 仁 美… 6
- 自著を語る
(1)『大阪樟蔭女子大学図書館所蔵大坂南組岩田町
綿屋七右衛門家文書目録』
(非常勤講師) 長谷川伸三… 8
- (2)『近代日本の身装文化—身体と装いの文化変容』
『年表 近代日本の身装文化』
(教養教育センター教授) 高 橋 晴 子… 9
- 図書館から本が消える？ 図書館が消える？
(短期大学部キャリアデザイン学科教授) 門 正 博…10
- 読み、書き、話すこと
(大学院人間科学研究科人間栄養学専攻教授) 山 東 勤 弥…11
- みなさん、『朝バナナダイエット』を続けていますか？
(学芸学部食物栄養学科准教授) 木 村 雅 浩…12
- 当世読書考 (教養教育センター教授) 歌 野 博…13
- 学生からの声
学生生活と図書館
(大学院人間科学研究科人間栄養学専攻2回生) 藤 本 瞳…14
- 夫の本を買って下さい
(大学院人間科学研究科臨床心理学専攻2009年修了) 宇 治 和 子…14
- 絵本の世界
(短期大学部人間関係科2回生) 福 井 千 賀…15
- 携帯小説と本
(学芸学部インテリアデザイン学科4回生) 田 川 景 子…15
- 私にとって「読書」とは
(人間科学部心理学科4回生) 中 野 有 雅…16
- 卒業生からのMessage
(学芸学部国文学科1974年卒業) 内 原 佳 代…16
- 学生選書ツアー報告 ……………17
- ベストリーダー2008 ……………18
- 2008年度図書館統計 ……………19



図書館長
いし

石川 義之

(児童学部児童学科教授)

大学は、学問を学ぶ所である。では、学問は何のために学ぶのであろうか。難しい学問を勉強してどんな意味があるのだろうか。

あらゆる知識はその社会その時代の反映

ハンガリーの社会学者、カール・マンハイム（1893－1947）は、「知識の存在拘束性（＝社会的被制約性）」ということを主張した。あらゆる知識は、それを生み出した人が組み込まれている社会的存在（社会集団、階級、世代、職業、宗派、社会過程、世界観、背後にある思考の枠組みなど）によって制約され拘束される、と言うのだ。日常人の生み出した知識はもとより、偉大な科学者や哲学者が生み出した知識でも、彼がその中で育った社会構造や時代の拘束を受けており、その意味で社会的時代的制約の許にある視座的で局所的なものであり、絶対的真理ではありえない、と主張するのだ。

あらゆる知識が、マンハイムの言うように、存在拘束性を受けているのであれば、真なる知識というのは存在しないことになる。事実マンハイムは、一切の知識（思考）の存在拘束性を認める立場から、論敵者の思考のみならず、自己が生み出した思考（知識）の存在拘束性をも認め、自己の立場すら、虚偽性を含み込んでいて真なる立場ではありえないことを容認している。そして、自己の立場を絶対視する立場としてカール・マルクス（有名な『資本論』の著者）の思想を批判しているのだ。この見地からは、大学で学ぶさまざまな科学的・哲学的知識も、社会的時代的な制約を受けて虚偽性を帯びたイデオロギーだということになる。こう考えると大学で学ぶとはどういうことかという疑問が浮かぶ。

「全体的総観」という広い視野を得る

実はマンハイムは、一方で、あらゆる知識（思考）を存在によって拘束された視座的で局所的な見解だとしつつも、だからといって一切の知識・思考を一律に退けてしまう相対主義は排除している。つまり、すべての知識・思考の存在拘束性を主張しながらも、それぞれの思考・知識に含まれる価値性・真理性を積極的に評価・判定し、思考間の優劣の差を考えることの重要性を指摘しているのだ。一切の知識・思考が社会的時代的な制約の許にあるとしても、思考の間には価値性・真理性の観点から見

何のために学ぶのか

て優劣の差があるというのだ。そして、価値性・真理性の最も高い知識・思考を「全体的総観」と名づけている。全体的総観とは、あらゆる歴史的思考の存在拘束性を包括的な立場から解明し、それらの思考を対決づけながら相互関連的に総合することによって得られる思考のことだ。それは、局部的視座的な思考のうち、特定の歴史的社会的時点において可能な最大の視野に立つ思考であり、その歴史的社会的状況と相関的にはあるが、最高の真理性をもつものである。われわれは、自己の立場の限定性を認識し、自己を相対化すると同時に、みずからの部分的な視野にとどまることなく、他の立場を通じて補完することに開かれてあり、みずからの地平を拡大していくこと、いわば「自己相対化と自己拡張の運動」を求められているのだ。このように「動的」であることによってのみ全体的総観に肉薄することができると、マンハイムは力説する。

大学で学ぶことと読書の重要性

大学とは、受け身的に諸知識を受け取るだけの場ではない。それらを対決づけて「全体的総観」に近づくための場なのだ。そして、この全体的総観に近づくことによって広い視野でものごとを見ることのできる資質を身につけることこそ、「学ぶ」ことの根本的意味でもある。その際読書が核になることを付け加えておく。

(参考文献：カール・マンハイム著、鈴木二郎訳『イデオロギーとユートピア』未来社、1968)



「それでも私はお姫様」

山本 恵 未さん（人間科学部児童学科4回生）

専門図書館を訪ねてみませんか

学芸学部インテリアデザイン学科
教授

いち むね ひろ こ
棟 宏子



リヨンの街の小さな本屋さん

リヨンの中心街ベルクール広場のまわりを歩いていたとき、ウィンドウに飾られた食べ物の絵本とステキなインテリアに惹かれて、小さな本屋さんに立ち寄った。中に入ると、どうやら食べ物や料理に関する本ばかりそろえた専門書店らしい。店が小さく見えたのは間口が狭いからで、奥行きは深く、案外スペースにはゆとりがある。

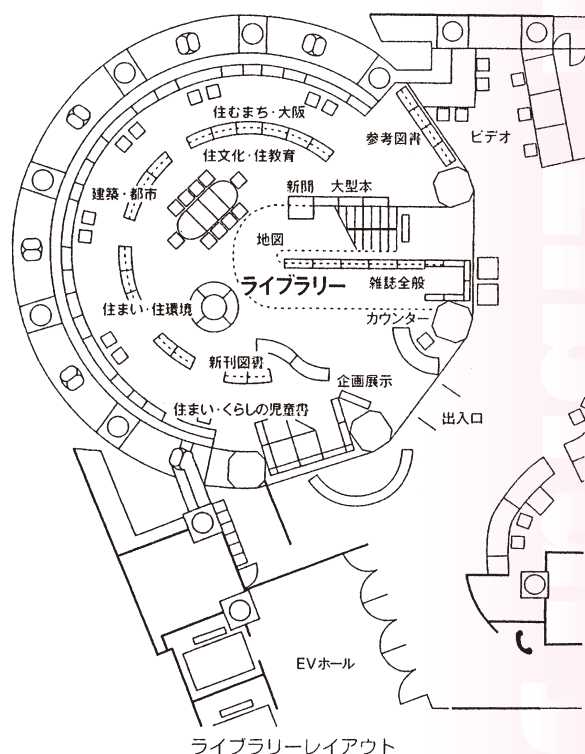
絵本も含めて置かれた本数は多いが、本だけでなく、ディスプレイされたおしゃれな調理用具や小物、エプロンなども買えるようだ。本棚の向こうにはワークショップを開いていたのか、女性たち10人くらいがいすに掛けて和やかに談笑している。ほらあなに似た奥の小部屋は児童書コーナーであろう。子どもがそこにある絵本を見たり、遊んでいるのが見える。つきあたりにはキッチンスタジオが設けられて、お料理教室やパーティが開けるようになっていた。心地よいインテリアが落ち着ける雰囲気をつくりだしている。

偶然立ち寄ったこの本屋さんのありようは、私にも興味深く楽しいものであった。お料理好きな人、食べ物に関心のある人にとっては何度でも通いたくなる本屋さんに違いない。日本でも、このように本の種類や客層に的を絞った専門書店が増えていると聞いていたが、この店のレベルはかなり高いといえよう。

大阪にある「住まいのライブラリー」

図書館の場合も、このように専門に特化した小規模な図書館（室）が各地に増えつつある。たとえば、インテリア・住まい・まちづくり分野では、大阪市立住まい情報センターに設けられた「住まいのライブラリー」（[図参照](#)）や、特定非営利活動法人が運営する「西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」などがあげられよう。

住まい情報センターは、住宅を借りたい、買いたい、勉強したい人に、必ず何らかの情報の手がかりが得られるワンストップサービスを目指して創設されたものである。「住まいのライブラリー」には関連書籍が、専門書から雑誌、ミニコミ誌、企業広報誌、小説・随筆、絵本まで幅広く取りそろえられている。畳コーナーも用意され、子どもたちがそこで絵本を広げている風景がほほえましい。



ライブラリーレイアウト

専門図書館の魅力と役割

住まいを勉強するにはまず暮らしの検討が欠かせない。日常生活の実態から福祉、医療保健、環境、文化、政策などカバーする範囲は幅広い。工学、生活科学、社会科学、芸術など、多領域の専門分野にまたがっている。大型図書館であちこちに分散された本を探す苦労はだれも経験することである。特に、学生の皆さんにとって、小規模でもこのように情報が凝縮された専門図書館の存在は、学習の視野を広げてくれるよい機会となるのではないだろうか。講演会やワークショップ、研究会などのイベントも魅力的で、まさに専門性を活かしたメリットといえる。

皆さんもぜひ興味ある分野の専門図書館を探し、訪ねてみてはいかが。



海外図書館事情

Seattle Public Library

学芸学部英米文学科講師



ン・マエダ

Ann Mayeda

Department of English and American Literature

There is not such a cradle of democracy upon the earth as the Free Public Library, this republic of letters, where neither rank, office, nor wealth receives the slightest consideration.

— Andrew Carnegie

The above quote is placed prominently on the fourth floor wall of the Seattle Central Library, and after a very informative guided tour of the facility, I found it to be quite true to these words.

This library is one of the 27 in the public library system and is located in the heart of downtown Seattle, Washington. Designed by Dutch architect, Rem Koolhaas, this glass and steel structure came with a price tag of \$165.5 million and opened in 2004, corralling more than 8,000 visitors a day in its first year.

The 11-level structure sports a contemporary look and feel that is innovative in both form and function. The library's total area sprawls 362,987 square feet of which only 32 percent is devoted to books and materials - it is also administrative center, book-sorting center and civic center with auditorium and meeting rooms. Designed with growth in mind, it has a capacity for more than 1.45 million books and materials and currently houses 1 million items on 9,906 shelves.

In an attempt to reshuffle how libraries house information, all the books move around the building in a high-tech book-handling system that operates for the most part out of public view. All nonfiction librarians are gathered in a central "mixing chamber" or platform on Level 5, connected by both sight and intercoms. These information guards guide patrons to the "spiral of books" - a gently inclined unbroken floor that climbs and climbs from Levels 6 through 9, and emphasizes the unity of knowledge. It also cuts the search time for a book in half.

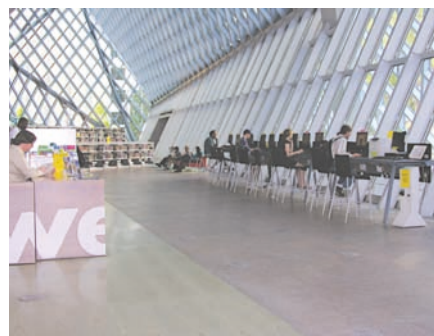
When planning the library, the designers anticipated the future as not one of a scarcity of information that libraries have traditionally addressed by sharing books; rather, it was and is the over-abundance of information brought on by the Internet. Patrons would need help sorting through the 100,000 hits their search engines might return. Thus the Central Library is fundamentally designed - in both its public and staff spaces - to meet the Information Age of the 21st century. The building currently houses 400 computers for public use, is wireless Internet ready and equipped with stations for laptop plug-in access.

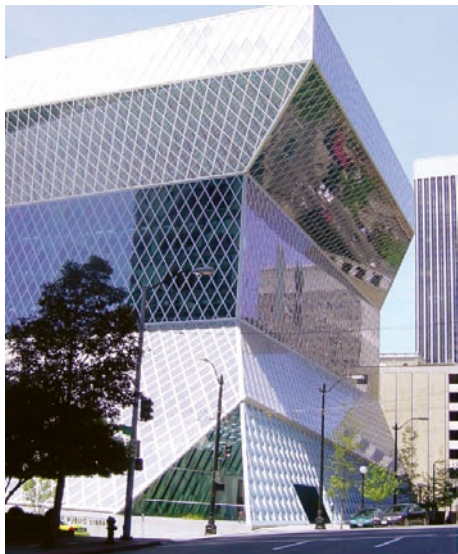
The Library Equal Access Program (LEAP) helps make the Central Library an equally accessible resource for people with disabilities and/or special needs. The program offers adaptive equipment, materials in accessible formats and library services for patrons who are visually impaired, hearing impaired or have other special needs.

In the US, libraries have now become places where the public expects free Internet access and training on how to use it; 24-hour research assistance; the ability to access materials such as the Oxford English Dictionary from a home computer; online card catalogs that offer photos, reviews and other information once more common to commercial sites. While printed materials still make up 66 percent of the library materials budget, more and more information is now available only in electronic form. The Central Library has been able to adapt and accommodate this changing dynamic and is paving the way for other libraries nationwide.

And lastly, for a city known for its coffee history (home to Starbucks, Tully's and SBC) and eco-friendly policies, one can understand why lidded drinks are allowed inside the library and why the parking garage is equipped with charging stations for hybrid electric cars.

So while Carnegie referred to rank, office and wealth as having no consideration in a public library, what is noteworthy about this library is that it truly levels the playing field by not only providing equal access but the latest, state-of-the-art access to information and technology. That, in my opinion, is a very mean feat.





シアトル公立中央図書館
(11階建 33,721㎡、総工費 1 億6550万ドル、
レム・コールハース設計)

【要約】

シアトル公立中央図書館は、2004年、市内の27の公立図書館の要としてダウンタウン中心部に開設された。オランダの建築家レム・コールハースの設計で、ユニークな建築デザインとともに、従来の図書館のイメージを超えた革新的なコンセプトをもち、初年度には1日約8,000人が訪れたという。

この図書館に収蔵された書籍・資料は現在100万件(145万件収容可能)、床面積の約1/3を占めている。残りのスペースは管理部門をはじめ、書籍分類センター、講堂、会議室、市民センターが併設され、多目的に利用されている。従来の図書館と最も違うところは、日本の図書館で言えばレファレンスデスク+閲覧室(読書用の机と椅子が並んでいる)に代わるスペースとして、"mixing chamber"というフロアがこの図書館にあるところである。この部屋には100台を越えるコンピュータが設置され、訪問者は図書館に収蔵されている資料検索および閲覧だけでなく、インターネットによる情報検索に関しても専門の図書館司書の助けを受けながら行うことができる。

情報化社会の現代は、過剰な情報にどう対処するかが重要な課題である。現在、アメリカの公立図書館は一般の人が無料でインターネットにアクセスでき、情報処理法を学ぶ場として、また、自宅から図書館を介して辞書やオンラインカードカタログが利用できる等、24時間の支援体制をとっている。この図書館でも全体でコンピュータを400台設置、他にノートパソコンに接続できるステーションもある。

特筆すべきは、図書館平等アクセスプログラム(LEAP)である。視聴覚等に障害があり、特別なニーズを持つ人にも、平等に図書館を利用できる設備環境とサービスを提供している。なお、シアトルはコーヒーと環境にやさしい都市として知られているが、蓋つきコーヒー容器持込みOKや電気自動車の充電ステーション設置など、この地域ならではの特徴が活かされている。

4階にはA. カーネギーの「階級、役職、富を少しも考慮しない自由な公共図書館こそが、この地に民主主義を育むゆりかごとなる」という言葉が掲げられているが、まさにこの図書館のあり方を示しているといえよう。

(学芸学部インテリアデザイン学科教授 一棟宏子 いちむね ひろこ)



図書館内部のようす





読書

産経新聞大阪社会部『「死」の教科書～なぜ人を殺してはいけな
いのか～』（扶桑社新書、2007年）より

現代の日本で「生きる」ということ

みな がわ ひと み
南 川 仁 美

（学芸学部国文学科 3 回生）



「命の大切さ」は叫ばれているが

現代の日本は、そこかしこで「命の大切さ」が叫ばれる世の中である。「命は大切なもの」であることが「常識」の世の中である。「大切な命」は奪ってはいけない。だから、殺人はいけないことだ、戦争はいけないことだ。それが現代の日本の常識で、だからこそ日本は平和な世の中なのだと思います。しかし、毎日の新聞の紙面やテレビのニュースから、国内で起きた理不尽な死の事件が消える日はない。事件が起きる度に「命の大切さ」が叫ばれ、叫ばれている傍からまた事件は起きる。

——現代の日本の常識は極端に偏っているのではない
か？

本書の、死をタブー視する日本社会の一面を示す文章を読んで、そんな疑問が浮んだ。

本書には、新聞社ならではの切り口で、様々な角度から死と直面する人々を取り上げられる。教育現場で「死を通して生を考える教育」にあたる教諭、JR福知山脱線事故の遺族と遺族係（加害企業側）、刑務官と死刑囚と死刑「存続論」「廃止論」に揺らぐ遺族、「延命」と「尊厳死」に揺らぐ医師と患者と患者家族、葬儀業者、イラク戦争での難民と米兵等々。

「豊かな国」で病んでいく人々

「死の重さ」を知らなければ、「生の重さ」だけを見つめてみても、真に「命の重さ」を感じることはできない。それが現代の日本の実態ではないだろうか。「戦争を放棄した国」に待ち受けられていた落とし穴と

もいべき問題なのかもしれない。生と死は「対極」ではなく「対」のものとして考えなければならない。

「——豊富な食料、膨大なエネルギー、高い教育、優れた技術……すべてがあるのに、そこで暮らす人間たちはどんどん病んでいくばかりだ。……何がそこまでお前たちを蝕むのか。……」（五條瑛『心洞〈Open Sesame〉』（双葉社、2003年）より）

現代の日本人に投げかけられた、こんな台詞がある。本書を読んで、改めてこの台詞を噛み締めた。



「今日は、ここまで」

山 本 恵 未さん（人間科学部児童学科 4 回生）

感想文

館報「こかげ」掲載文についてのおわび

大阪樟蔭女子大学図書館報「こかげ」第3号7頁に掲載しました読書感想文「百瀬しのぶ『おくりびと』」において不適切な引用がありました。検討の結果この感想文を削除させていただきます。

関係者の皆様や学生・教職員の方々に多大なるご迷惑をかけてしまいましたことを、心より反省し、お詫び申し上げます。今回の件を深く受け止め、このような事態の再発を防ぐよう今後十分配慮をいたします。

今後も「こかげ」のご愛読・ご応募よろしくお願い申し上げます。

平成21年4月3日
大阪樟蔭女子大学図書館

自著を語る
(1)

『大阪樟蔭女子大学図書館所蔵
大坂南組岩田町 綿屋七右衛門家文書目録』

元 学芸学部日本文化史学科教授 非常勤講師

長谷川 はせがわ

伸 しんぞう
三

古文書の日録整理と解説

本書は大阪樟蔭女子大学図書館所蔵の古文書綿屋七右衛門家文書の日録に解説と史料紹介を加えたものです。

この古文書は1999年に図書館が購入したもので、未整理の状態だったので、私が研究室に借り出して、1点ずつ中性紙封筒にいれ、作成年月日・表題・内容・作成者・宛名・形態・数量などを記入して整理しました。それを所蔵状態を反映した文書目録と作成年月順に並べた編年目録にまとめました。史料目録としては、文書の性格や内容によって分類し、配列する方法もありますが、この古文書は総数108点と少ないので、上記の方法をとりました。この整理と目録作成、解説に約3年かかりました。この間、公開講座「近世古文書を読む」でテキストに採用し、2年間に約60点の史料を解説しました。受講者の熱心な質問やご意見により、解説を深めることができました。また「史料講読」の授業で、学生諸君に整理作業を手伝ってもらい、テキストにもしました。

目録の作成にはパソコンのエクセルを活用しました。このソフトは史料目録の一覧表作成に適しているとともに、印刷原稿の版下やデータベースにも応用できます。また作成年月に西暦の数字を加えることで、編年目録を容易に作成することができました。ただプリントアウトすると、各セルの文字列の末尾が印刷されないことがあり、気をつかいました。また文書作成者の押印を㊤印か㊤印で示そうとしましたが、㊤印をセルに入力できず、□で示すことにせざるをえませんでした。これらは印刷所の方に色々と助けてもらいました。

綿屋七右衛門の商家の歴史

史料目録の対象は、大坂三郷南組岩田町の綿屋七右衛門家です。この家は中村姓、屋号が綿屋で、七右衛門を名のった時期が多いようです。岩田町に店舗をかねた屋敷を持ち、古綿・夜着・蒲団などを扱う問屋でした。他に数軒の家作を持ち、金融も行っていました。108点の文書は天明期（1781年以降）から明治中期（1897年まで）にわ

たりますが、天保・弘化・嘉永期（1830年～1853年）のものが多く、近世後期の大坂の商家の経営や生活を伝えています。冊子は横帳3冊で、幕末期の勘定帳です。家屋敷の売買証文が6点ほどあり、家作を集める過程がわかります。奉公人請状が7点あり、他に乳母奉公人請状1点と古綿商売見習の一札が2点あります。証文の中では借用証文が多く、取引先が商品の代金を借用する例もみられます。取引相手は、大坂の他、中国・四国・九州におよんでいます。明治期の文書が6点あり、同家の明治期の状況を知ることができます。

安産の「岩田帯」の発祥の地

なお岩田町は現在大阪市中央区東清水町にあたり、島之内の心斎橋筋から東にはいった所です。近世でも商家が軒をならべた街でした。岩田町には岩田地蔵があり、安産・子育てのご利益があるので、岩田町には腹帯を売る店が数軒あり、ここから腹帯を「岩田帯」と呼んだということです。

本書には、10点の史料を選び、写真と解説文を載せました。この文書の一端を知って頂けるとともに、近世文書解説のテキストにもなります。本書が活用され、また古文書自体が閲覧されることを期待しています。

大阪樟蔭女子大学図書館所蔵
大坂南組岩田町
綿屋七右衛門家文書目録

2008年3月

大阪樟蔭女子大学地域文化センター

（大阪樟蔭女子大学地域文化センター、
2008年3月5日発行、B5判42ページ）

和装から洋装への変容

「自著を語る」のコーナーでお話するのは、すこし気恥ずかしいのですが、せっかくいただいた機会ですから、久しぶりに2冊の本をふりかえってみたいとおもいます。この2冊では、明治元年（1868年）以降、約100年間の近代を生きた人々の「身装—身体や装い」のことについて述べています。この期間は和装と洋装が競い合い、日本人の衣生活がダイナミックにいろいろな変容を遂げた期間でした。変容の基本は西洋化ということなのですが、現在のみなさんの洋装生活が日本に定着するのは、厳しく見積もって1960年代の後半だと思います。

皆さんは、「サザエさん」の漫画をご存知でしょう。サザエさんのお父さんは会社からもどると和服に着がえます。これはまだ洋装が日本人の衣生活に定着しているとはいえない状態です。結局、明治維新以降、約100年かかって、現在のみなさんの衣生活の基礎が築かれたのです。

新聞連載小説の挿絵に 教えられて

2005年版の『近代日本の身装文化』は、身装の基本資料—写真や挿絵などの分析が柱となっています。この本を書くにあたって、自分で「万歳！」と叫んでしまったのは、いままで身装の資料としては顧みられていなかった、当時人気の高かった新聞連載小説の挿絵の重要性を発見したことです。いつ頃から引き裾（現在の和服のおはしょり）は、昔は外に出るときだけで、家のなかでは裾を引いていました。別にお姫様だけが裾を引いていたわけではないのです。）

がなくなっていくのか、とか、写真では残されることのほとんどなかった男女の下着の様子とか、あるいは、いつ頃からシーツが日本で普及し出すのか、といった

ことがわかります。時代劇をみていただくとわかるのですが、人はお布団の上に直接寝ていますね。シーツも、西洋的な清潔感の影響をうけた変容のひとつなのです。

また、身体的な変容も挿絵は語ってくれています。この100年間のうちで、女性の身体について大きく目立って変わったことは、戸外に出る機会が多くなる大正（1912～1926）時代以降、姿勢がよくなっていくこと、さらには小説の美しいヒロインの顔がきつね目、おちょぼ口の浮世絵様式から、パッチリとした大きな目と表情豊かな顔つきに変化していくことです。人の身体でさえ、その時々文化の影響を受けるのだということが、挿絵からよくわかります。

人の行動に見る慣習と 身装とのつながり

2007年版の『近代日本の身装文化』は年表形式ですが、新聞記事のデータが中心を占めています。ひとつの例をあげましょう。皆さんは日本映画に最初キスシーンが登場するのは戦後の1946年、松竹映画「はたちの青春」という“歴史”をどこかで読んだことがありますか（たとえば『戦後史大事典』三省堂 1991年）。ところが新聞記事を丹念に見ていると、なんと戦時中の1939年でさえ、内務省の検閲で年間に16本の日本映画のキスシーンがカットされていたという大発見がありました〔報知新聞 1939年3月17日3面〕。キスシーンも、身装の文化変容のステップを身体的に示す重要な要素のひとつです。

以上のように、私のめざしている身体と装いに関する研究とは、人の着る衣服と、衣服を着る人の心とを等価値に考え、また、人をとりまく情景や文化的環境までも視野にいられています。このような意味をこめての「身装」が私の研究テーマです。



『近代日本の身装文化—身体と装いの文化変容』 年表 近代日本の身装文化

（三三社 2007年）

（三三社 2005年）

教養教育センター教授

高橋

晴子



自著を語る (2)



図書館から本が消える？ 図書館が消える？

短期大学部キャリアデザイン学科教授 門 正博 もん・まさひろ

読書は至福の時間

何をというわけではないが、本に囲まれた状態がけっこう気に入っている。それは図書館であったり、古本屋であったりするわけだが、背表紙を眺めながら気になる本を抜き出して読んでみる。また、適当に本や雑誌を積み上げた部屋で、寝そべりながらパラパラとページを繰り、読むというより眺めてみる。時として、本を枕に眠ってしまうこともある。仕事がひと段落ついておちついたときにやってみる。至福の時間である。次から次へとやらなければならないことが降りかかってきて、なかなか得がたい時間だが、頭の中で想像しては慰めている。これを仕上げたら、……。

しかし、現実にはパソコンの前でシコシコとこの原稿を書いているわけである。

さて、皆さんもパソコンの前で作業をすることが多いと思う。最近では、図書館に走るよりも、ネットで検索するほうが先であろう。電子化された情報がインターネット上に集められている。Googleなどは、これらの膨大な情報をデータベース化し、利用できるように様々な試みをし、実現している。

目録カードが消えてOPACへ

図書館から、目録カードが消えて久しい。学生の頃、書名順や著者名順のカードを繰りながらさがしたものである。うろ覚えの書名でなかなか見つからず苦労したこともあった。しかたなく十進分類から見当をつけたあたりでさがすこともあった。専門の学術雑誌も図書館に到着するのを待って読んでいた。より新しい情報はプレプリント（タイプ印刷され右端がでこぼこ）として、こちらは研究室へ送られてきた。

今では、O.P.A.C.システムが取って代わったため、書名の一部やキーワードからも資料をさがせる。また、辞書や事典のたぐいも、多くは電子化されており、電子辞書というコンパクトに持ち運び可能な形にまでなっている。格段に効率がよくなっている。

専門の学術雑誌は、少なくとも自然科学の分野では

電子化されているものが多い。もちろん冊子体での出版もされているが、同時に電子化されている。プレプリントという形でもそうであったが、今はメールなどで論文の内容は世界に流され、雑誌として印刷されるころには既に古いデータであり、あくまで研究業績の記録という意味しかないようである。

私の専門の宇宙物理学ではADS(The SAO/NASA Astrophysics Data System)と呼ばれるデータベースがあり、最新の研究も含めた論文の検索ができる。全文を参照できるものもあり、少なくともAbstractは閲覧できる。

電子データ読書は読んでいる実感がない

さて、残るのは書籍そのものである。O.P.A.C.システムで調べた書籍データにアクセスすると、今度は電子データで閲覧できるようになるのだろうか。そうすれば、本を探して図書館へ足を運ぶ必要がなくなる。実際に、著作権フリーのものは、電子テキスト化され利用できるようになってきている。グーテンベルグ計画や青空文庫という名前を聞いたことがあるだろう。電子データで購入できる（ペーパーレス）販売システムも見られるようになった。著作権などの処理を済ませた電子データでの貸し出しシステムもできるかもしれない。書籍も無くなっていくのか。そして、電子データのみとなれば図書館はどのような形になるのだろうか。

個人的には、あの本の独特の香りと紙の手触りは捨てがたく、読んでいる実感がある。モニターで見ると頼りなく感じ、やはり印刷して読むことが多い。

読み、書き、話すこと

さんどう・きんや
大学院人間科学研究科人間栄養学専攻教授 山東 勤 弥



話すこと

司馬遼太郎先生は「十六の話」に「なによりも国語」という文章を書かれている。要約すると、国語力を養う基本は「文章語にして語れ」ということになる。

単語だけで意志が通じあう環境では、国語力は育たない。生活用語は四、五百語といわれており、生涯、四、五百語で、それも単語のやり取りですごすことができる。しかし、その人の精神生活は、遠い狩猟・採集の時代と少しもかわらない。これでは言語によって、「感動すること」もなく、「叡智を触発されること」もなく、「人間以上の超越世界を感じることもなく」、「知的昂揚を感じることもなく」、「愛を感じることもなく、まして「古今東西の古人と語らうこと」もない。さらに、「ながいセンテンスをきっちり言えるようにならないければ、大人になって、ひとの話をきけず、何をいっているのかもわからず、そのために生涯のつまずきをすることも多い。」と記述している。そうならないように（決してペチャクチャうるさいだけの「大阪のオバちゃん」になって欲しくないの）、この駄文を参考にして大学生生活を送っていただければ幸いと考えます。

読むこと(I)：多読

さて、具体的にどうすれば、「文章語」にして語れるようになるのか？

頭の中に言葉を入れる作業をしないと出てこないの、とにかく「多読」することである。電車内ではメールやゲームをするのではなく、読書をする習慣をつける。そうするとポケットに「文庫本」がないと落ち着かなくなり、また自然と待ち合わせ場所は「ジュンク堂」か「紀伊國屋書店」などの書店になる。

では、何を読むのか？

とにかく、「友人のすすめ」あるいは最近では「本屋大賞（全国書店員が選んだ いちばん！ 売りたい本）」などを参考にして、他人がすすめる本から読むのが良い。私も友人のすすめで、初めて読んだ本は北杜夫の『船乗りクブクの冒険』であった。

そしてお気に入りの作家に出会ったら、次はその作家のシリーズものを読む。

筆者がたどった読書歴は、まず北杜夫の『どくとる

マンボウシリーズ』（『青春記』『航海記』など）（『検家の人びと』も良かった）、遠藤周作の『狐狸庵先生』シリーズ（『黒ん坊』も良かった）、畑正憲の『ムツゴロウシリーズ』（『青春記』『結婚記』（『どんべえ物語』も良かった）、庄司薫の『赤頭巾ちゃん気をつけて』、『もう狼なんかこわくない』、『白鳥の歌なんか聞えない』、柴田翔の『されど、われらが日々』、『贈る言葉』、辻邦夫の『背教者ユリアヌス』（文中に傍線を引いてしまった！）、開高健『日本三文オペラ』（も良かった）、大江健三郎の『飼育』（難解だが）、渡辺淳一の自叙伝の『白夜』（は良かった）、山岡壮八の当然定番の『徳川家康』など歴史小説、花村萬月（すごい！）、海堂尊（本の表紙の色が黄、青、赤、黒、緑色になっていてオモシロイ）、久坂部羊の『廃用身』、『破裂』、『無痛』などである。

読むこと(II)：論理的思考力

しかし、「ただ、読むだけ」ではダメである。次の段階の話としては、「論理的思考力」を身につけなければならない。手っ取り早く、「起承転結」の論理的思考力を身につける方法のひとつに、「天声人語」あるいは「社説」を読むことがある。

ある高校の新任の先生がテニス部の顧問になって、部員にさせたことが、「天声人語」の模写である。初めは部員たちは猛反発したが、模写することで、「集中力」、「論理的(起承転結)思考力」、「根気」が養われ、みるみるチームの実力がアップして歴戦連勝となったとのことである。筆者も「常識(漢字力)」、「教養(時事問題)」を養う意味で、卒業ゼミ生に模写の宿題を課している。毎日15分間あればこれらの力が身につくのである。無理なく、簡単にできることが継続する上での必要条件である。継続は力なり。

書くこと

私がすごしてきた「医学教育界」では、「診療(医療)」、「教育」、「研究」を日常業務の「3本柱」にし、忙しい毎日をすごしている。この世界では、発表する人は「きっちりしている」とされ、さらに、論文など文章を書く人は「信頼できる」とされている。話すことと書くことはレベルが違う、いやラベル(次元)が違うのである。



みなさん、『朝バナナダイエット』を続けていますか？

きむら・まさひろ
学芸学部食物栄養学科准教授 木村 雅 浩

この文章は、2008年11月に執筆したものです。みなさんがこの文章を目にするころには、「そういえば、そんなのが流行ったなぁ」となっているでしょう。

さて、このダイエットは、mixiミクシィのあるコミュニティを発祥とし、テレビで取り上げられ、一躍注目の的になりました。書店のダイエット本コーナーでは、このコミュニティ運営者が書いた本や、某昼の番組から出版された類似本が山積みになっていました。また、スーパーでバナナが売り切れたことがニュースになりました。一般の方は医学的根拠があるダイエットと捉え、実践されたかもしれません。しかしながら、本書に記載された医学的知識が、それこそ、“おもいっきりイイ!!”間違っていました。

本書は巧妙に書かれており、＜ニセ科学・トンデモ科学＞や怪しげなダイエット食品の広告に共通する“読者を勘違いさせる仕掛け”が随所に見受けられました。序文に“医学的根拠に基づいた”ダイエットであると勘違いさせる仕掛けが二つあります。これを解説することで、みなさんがこの手のものに騙されないようになってほしいと思います。

Point 1

本書では、「長年研究してきた予防医学」から編み出したということが強調されていました。この一文で、「現代医学的根拠に基づいているんだぁ～」と考えてしまうでしょう。しかしながら、本文中に、この予防医学についての詳しい記述が見当たりませんでした。全体の印象から察すると、民間療法やアユルヴェーダ（古代インドの民間療法）のことを指しているようです。つまり、現代医学とは別物であることをはっきり記述せずに、“医学”という言葉の響きで、現代医学的根拠に基づいていると錯覚させています。

Point 2

専門知識がない方に説明するため「専門用語を最大限使わないように…」と本文中に出てきます。この

コトバは魔法のコトバです。みなさんは、何が魔法なのかわかりますか？

専門用語を使用しないからといって、その根拠を詳しく説明しなくても良いはありません。そこで、本書では《医学的根拠に基づいた説明ができない＝専門用語を使用しない＝簡単に説明するために根拠を詳述しない》といったすり替えを行なっているのです。そして、読者の受け取り方は《専門用語を使用しない＝簡単に説明するために根拠を詳述しない＝医学的根拠に基づいた説明は無いが、医学的根拠に基づいた事実である》にすり替わってしまうわけです。その結果、医学的根拠に基づいた説明が無いにもかかわらず、書かれたことを事実として読者が勝手に受け取ってしまうのです。

賢明な読者のみなさんは、もうお分かりだと思います。本やテレビで言っているからといって、事実であるとは限らないのです。論理的に矛盾が無いことをみなさん自身が批判的に検証し、理解・納得した上で、事実か否かの判断を下す必要があるのです。最後に、このような＜ニセ科学・トンデモ科学＞に騙されないための書籍を紹介して終わりにしたいと思います。

参考文献

- 1) 阿刀田高 著『詭弁きべんの術』(角川文庫) 1993年
- 2) 池内了 著『疑似科学入門』(岩波新書) 2008年
- 3) 高橋久仁子 著『「食べもの情報」ウソ・ホント』(講談社BLUE BACKS) 1998年
- 4) 高橋久仁子 著『「食べもの神話」の落とし穴』(講談社BLUE BACKS) 2003年

当世読書考

うたの・ひろし
教養教育センター教授 歌野 博



現代の二宮尊徳

とある秋の一日、自転車に乗ったまま、漫画雑誌に読みふける少年を目撃した。高速道路を併走するトラックの運転手が、ハンドルにさしかけた漫画本に目を走らせている姿を見かけたこともある。現代の二宮尊徳たちは、軽やかに銀輪を漕ぎ、大型車を悠然と操りながら読書にいそしむ。はたまた、電車の中でははてんでケータイに見入る老若男女の姿が、今や化粧や食事をのいでありふれた光景となつて久しい。見入られたコンテンツがメールであれ、ケータイ小説であれ読書に変わらないとすれば、その情熱には頭が下がろうというものだ。現代の二宮尊徳たちは、時と所をかまわず読み散らす。これもそれもIT技術の恩寵おんちようと思えば、再び頭も下がろうというものだ。

いつでもどこでも読める。デジタル・ネイティブ世代の読書の流儀にいちもんをつけても詮無いが、そんなにまでして読みたいものか、と訊いてみたい気にはなる。いつでもどこでも読める、という便利と自由は、野暮で無粋なスノブ（俗物）好みの自由ではないか。

かくいう私も、告白すれば、バッグに忍ばせたIC辞書の恩恵にあずかって年季が経つ。掛け値なしに便利だ。わが国の国語辞典の金字塔、『日本国語大辞典』（精選版）入りまで現れて、いよいよ、時、所かまわずIC辞書を引く、その習慣に強迫観念的な衝迫まで伴いだしたのは幸なのか不幸なのか。ともあれ、かくまでお世話になっているIC辞書へ、お礼とオマージュ（賛辞）合わせたキャッチコピー「行動する知性の必携アイテム」を捧げたい。

参照型の読書と鑑賞型の読書

辞書や百科事典を引く。一冊の本の必要な部分だけを読む。このような参照型の読書には、ケータイ、モバイル、パソコンなどのIT機器こそふさわしい。

一冊の本とじっくり取り組む。フィクションに限らないが、フィクションにとりわけ当てはまる鑑賞型の

読書なら、紙の本に限る。活字で育った世代にはいままさらのことだが、紙の本をめぐる状況は予断を許さない。

ごつごつした感じの活字よりドット文字の方が読みやすいとノタモウたデジタル・ネイティブ世代、電子ペーパー、紙の本を模した電子ブックリーダーなどの登場、最初からデジタル化されている（ポーン・デジタル）現行の本のみならず、過去の膨大な知的遺産をもターゲットにしたデジタル化の激浪（ゲグル、マイクロソフトなどのIT陣営が、世界有数の大図書館を巻き込んで推進するデジタル化プロジェクト、日本の国会図書館はじめ各国の国立図書館やEUのデジタル図書館）など、官民挙げてのデジタル化の動きは紙の本の絶滅危惧種化、あるいは工芸品化が決して架空の話ではない状況の予兆である。

コデックス（綴じた本）とスクロール（巻物）

紙の本は著者の創造した世界が文字通り綴じこめられている。（書物史的に言えば、5世紀に完成したコデックス「綴じた本」を継承する紙の本に対し、デジタルの本は、画面をスクロールすることに象徴的な、コデックス以前の巻物—「スクロール」の暗喩あんひを秘めている。）擬似的の世界体験としての読書にどちらがふさわしいか、は自明に属しよう。さらに——。

読書は、物理的、状況的に、いつでもどこでも自由に読めればいいというものでもない。学生時代、卒論に追われる状況下、こんな本を読んでいる場合じゃない、という禁断さんどくのささやきに抗しながら、卒論とは関係のない本を濫読した時期がもっとも充実した読書体験だった。読み終えた直後の昂揚感こうようと、世界の微妙な変容感を今もなつかしく思い出す。

学生からの 声

学生生活と図書館

ふじ もと ひとみ
藤 本 瞳

大学院人間科学研究科人間栄養学専攻2年生



私は小阪キャンパスに通い続けて、もう5年目になる。しかし、図書館で過ごした時間はほんの少ししかない。恥ずかしながら大学生活4年間で図書を借りた回数など両手の指で数えても余るくらいの少なさで、図書館を利用すると言っても試験前に自習を行うことがほとんどであった。

大学院に入り図書館利用が増える

こんな私が今年、大学院に入学してからよく図書館へ足を運ぶようになった。その理由は修士論文を作成するにあたり、多くの文献を読まなければならない状況になったからである。もともと文章を読むのが好きな方ではなかった私にとって、それは苦痛の始まりとしか思っていなかった。ところが、いざ取りかかってみると自分と同じような研究テーマでも研究者によってアプローチの仕方が異なり、それぞれが興味深い結果を生み出していることに気付いた時、より研究に対する意欲が高まるという大収穫を得ることができた。そして、最近では修士論文のための文献に限らず、より多くの図書に出逢うために読書の時間を設けたりするようになった。この変化には私自身も驚きである。

本学の図書館の利便性

大阪樟蔭女子大学の図書館では、インターネットを通じて図書館からのお知らせや予約・貸出資料の確認ができる「マイライブラリ」というサービスや、様々な図書を具体的に紹介してある“学生選書ツアー”や“図書館ぶっくにゅうす”などがあり、気軽に利用しやすい工夫が施されている。

毎日のように通い、自宅の次に多くの時間を過ごす大学の中の身近な場所に図書館があることは恵まれている。今さらながら、大学4年間にもっと多くの本を読んでおけばよかった…とつくづく思っている。特に学生の間は自由な時間がたくさんある。その時間をアルバイトや遊ぶことばかりに費やすのではなく、たまには読書に当ててはどうだろうか。きっと自分自身の中で何かが変わるきっかけになると思う。

夫の本を買って下さい

う じ かず こ
宇 治 和 子

大学院人間科学研究科臨床心理学専攻2009年修了



浮き世離れした夫の著作

私事で恐縮だが、近頃夫が本を書いた。私たちは専門が違うので、普段はお互いの領域には立ち入らないのだが、本を一冊書き上げたとなれば、話は別だ。気になって読んでみた。身びいきかも知れないが、結構面白く書けている。毎日原稿に向かって、悪戦苦闘(?)、とまではいかないにしても、何やら唸っていた日々が思い起こされ、感慨深かった。

でも、ここでは終われないのである。やはり研究者たる者、他人にその研究価値を評価されなければ意味がない。まして私達は夫婦である。本を買って貰わなければ家計が潤わない。ところが夫は学者特有の浮世離れした現実感覚の持ち主で、こういう場合ちっとも役に立たない。ここは妻の私が頑張らなくては、と考えた。

本誌で夫の著書の宣伝は妻の役目

そこでこの原稿の依頼を受けた時、密かに本の宣伝を企んだ。とりあえず図書館へ赴き、蔵書検索で確認してみた。しかし夫の専門分野は、当大学学科の参考にはならないらしく、残念ながら入っていなかった。少々気落ちしたが、想定内だったので諦めもついた。ならば、と国会図書館(PC画面から検索できる)のデータベースにアクセスした。とにかくすべての出版物を集めることを義務にしている図書館である。ないはずがない。だが有名な「忠臣蔵」という史実が題材なので、似た物がズラッと並び、探し出すのは困難だった。もう少し特徴のある題にすればいいのに、とボヤきながら、副題を思い出そうとしたが、今度は私が忘れてしまっていた。だが、著者名で絞り込めると気が付き、夫の名前を打ち込んだ。これで確実に探し出せる、と思いきや、“該当なし”という返答。さて、一体どうやったら本は見つかるのか、と不安になった。後から思い出したのだが、夫は本名だと売れないかも知れない、となぜか考えて、「^{のつけ ひさし}乗附 久」というペンネームを使ったのだ。その名で検索すると、やっと本にたどり着くことができた。やれやれ良かったわ、と思う反面、妻が忘れるぐらいなのだから、本名にした方がよっぽどすっきりして良かったのではないかしら、と思った。『こんな調子で、本当に本が売れて、家計は助かるのかしら?』と心配に思う方は、是非、夫の本を買って下さい。

絵本の世界

ふく い ち か
福井千賀

短期大学部人間関係科 2 回生



絵本を読む楽しさ

文芸作品には、小説・随筆・評論・絵本と色々な種類のものがありますが、その中で私は、最近特に絵本に興味を持っています。子供のころは、絵本は短い文章で読みやすく、カラフルな色彩を楽しんでいました。

学生になって、新たに絵本を読んでもみると、絵本で作者が伝えたかったメッセージは何かとか、この本を読んで他の人はどのように解釈するのだろうかとか考えて何度も読み返すことが多くなりました。絵本を読んで、小さい頃と変わらないことは、はっきりとした色を使いインパクトのある絵を楽しむことです。

最近、先生に紹介してもらった『じぶんだけのいろ』という絵本を読んだ時はすごく衝撃を受けました。

その本の内容は、一匹のカメレオンが行く先々で色が変わり、自分だけの色がなくて一匹で悩んでいました。ある日、年上のカメレオンと出会い共に生活していくうちに、自分には色がなくてではなく、色が変わるのが自分なんだと納得し、自分に自信を持つことができたという内容でした。

『じぶんだけのいろ』を読んで考え

つまり、この絵本のテーマは自我同一性（自分は何者であり、何をすべきかという個人の心の中に保持される概念）だと私は思いました。

この絵本に衝撃を受けたのは、私の中で自我同一性という言葉は難しく、単純に表現できないと思っていたのが、たった何行・何分で読み切れる絵本で、自我同一性を表せたことです。この絵本は、主人公が出した結論や行動に移したことの理由については書いていないと私は思います。その理由を考えるのが、絵本を描いた作者のねらいであって、読み手の楽しみである事に気がつきました。絵本はストレートな表現だからこそ伝わってくるものが多いのです。

夏休みに入ってから、図書館で『じぶんだけのいろ』を何度も読みました。自我同一性というテーマをもとに読んでいくと、場面・場面でのカメレオンの気持ちの変化がおもしろいと感じるようになりました。

図書館には、他にもいろんな絵本が置いてあります。私の文章を読んで、絵本に興味をもった方や、読書をしたけれど長い文章は苦手といった方はぜひ絵本を読んでみてください。図書館に行けば、いろんな本との出会いがあり、読書を心から楽しめるはずです。

携帯小説と本

た がわ けい こ
田川景子

学芸学部インテリアデザイン学科 4 回生



皆さんは携帯小説を読んだことがありますか？

携帯小説の魅力と書物との違い

携帯小説の中でも特に有名な「恋空^{こいぞら}」は、携帯小説の流行をつくった作品で、ニュースなどで取り上げられることにより人気沸騰し、この話が映画化やドラマ化したことは有名ですね。実際、私も「恋空」を読んだことがあります。今までの恋愛小説とは違った気持ちになったことを覚えています。

そこで、なぜこんなに人気が出たのだろうと思い、考えた結果、二つの理由があると思いました。ひとつは、いつでもどこにいても気軽に読むことのできる利便性です。携帯小説は、その名の通り携帯で読める小説。ちょっと時間が空いたときに見ることができ、携帯にダウンロードするだけで書店に行かなくても小説が読めるという新しい小説の買い方が現代の社会にマッチしたことがその理由と考えられます。そしてもう一つの理由は、携帯必需社会であること。携帯電話は今では必需品となり、携帯は財布と同じぐらい大事なものとなっている現代社会。そんな携帯だからこそ、携帯で小説を読めることは画期的であり、メールのような文章体が現実的で若者を中心に人気が出たことが要因の一つではないかと思いました。

図書館空間へのインテリアの工夫

このような現代で、携帯小説に負けない本の魅力をアップさせるためにはどうしたらよいかと考えた結果、最近の雑誌に見られるような付録をつけること。ちょっとした付録が付いていると買ってみようかなと思う事がありますよね。また、書店や図書館のインテリアの工夫。図書館は静かで落ち着ける空間ですがちょっと暗いイメージがあることから、もっと外の緑や風、光を取り入れた明るい図書館づくりや、図書館にカフェを併設させるなどの工夫が、図書館だけでなく本への興味にも影響し、本離れを回避するきっかけになるのではと思いました。このようなちょっとした工夫が本への魅力をアップさせるのではないかと思います。

私にとって「読書」とは

なか の ゆ か
中野有雅

人間科学部心理学科 4 回生



私にとって読書はなくてはならないものです。中学生のころから小説を買いはじめました。初めは、少女小説から読み出し、今では気に入った内容の小説なら何でも読みます。

漫画もちろん読むけれど、図書館に週1回のペースで通っています。近所の図書館は比較的小さめなので所蔵している本数は大きいところより格段に少ないけど、今は市内の市立図書館間で相互貸借のシステムがあるのでとても便利です。そのため、近所の図書館に無くても市内の図書館にあれば、予約をして読むことができます。1年のときに授業で、図書館が有料になるかもしれないときいたけど、私はそれでも図書館に通いつめるかも知れないと思います。図書館にあっても自分が気に入った本などは、自分で買っています。

1冊の本を何度も読み返したりします。暇があれば、本を読んでいます。妹も本が好きでいろんな本を2人で買っているの、家には沢山の本があります。沢山あるので、1度読んだ本でも飽きずに読むことができます。

最近、パソコンや携帯でも電子書籍として本を読むことができます。けれど、私は紙の本のほうが好きです。もちろん電子書籍も悪くはないと思いますが、なんとなく紙のほうが安心します。ページを捲って読んでいくのがとても楽しいです。最近の子供は本をあまり読まないし聴いているけど、本を読む楽しさを皆が感じてほしいなと思います。そして、本を好きになってほしいと思います。

本を読んでいると時間を忘れて、没頭してしまいます。本が無くては生きていけないと思うくらい本が好きなので、本が無い生活は考えられません。いつか、本だけの部屋を作るのがちょっとした夢です。今でも半ば、本に囲まれて生活しているようなものだけど、もっと沢山の本に囲まれて生活したいと思います。

卒業生からの Message

うち はら か よ
内原佳代

学芸学部国文学科1974年卒業

医科大学保健学部の図書館

みなさん、こんにちは。

私は、以前樟蔭の大学図書館に勤務していましたが、子育ての間、一旦図書館からは離れていましたが、現在は某県立医科大学保健看護学部の図書館に勤めています。

看護系専門図書館ということで、皆さんが利用する大学図書館とは少し違いがあるかもしれませんのでご紹介しましょう。

当館のサービスの対象は、教職員・学部学生・院生・助産専攻科学生及び附属病院職員と幅広く、また学外からの医療関係者は、県内はもとより他府県からの利用も含め年間約1000人程の方が来館されます。

学生は1年生から利用も多く、病院や地域での実習、看護研究、国家試験と、学生生活において図書館は切り離せないものになっています。

疾患名から判断できる闘病記コーナー

疾患についての知識や患者様の心理を理解する

ための手助けとなる闘病記をまとめ、タイトルから分かりにくい疾患名も背ラベルから判断できるようにした“闘病記コーナー”を設けています。

最近、看護研究がさかんに行われるようになり、先行研究を調べるなどの文献検索が欠かせないものになっていますが、医学・看護分野での電子ジャーナルの普及がめざましく、論文データベース(医中誌Web・CINAHL/MEDLINE・PubMed・CiNii・メディカルオンライン等)を使用して文献検索をしながら、外部リンクされている文献を入手できるようになってきています。

看護師・保健師を目指す学生のために

閲覧室カウンターでの応対やレファレンス業務を通じて看護師・保健師を目指す学生の皆さんや看護にかかわる人々から真摯さ、看護研究の重要性、看護の奥深さを感じる毎日です。微力ですが、図書館員として医療に携わる方のお役にたてることを私の日々の喜びとしています。

(図書館学を学んでいる学生さんへ： ____ 下線部に興味があれば調べてみて下さい)

学生選書ツアー報告



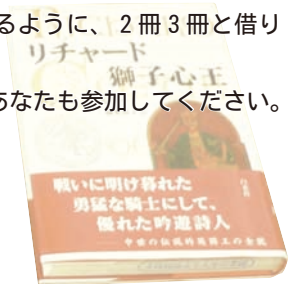
図書館の蔵書に学生諸姉のご希望を反映するため、今年度2回の選書ツアーをジュンク堂書店大阪本店にて開催いたしました。

第1回6月14日(土)に小阪、関屋両キャンパスあわせて11名参加で270冊を購入し、第2回は10月25日(土)に小阪キャンパスの学生のみ9名の参加で106冊の本を購入しました。

参加者は楽しみに、しかしながら学生の代表として選書しているのだと感じながら、本を選んでいました。選書を終えた参加者たちの顔はとても満足しているようでした。

選書された本は、ツアーの参加者によって作ってもらったポップとともに両キャンパス図書館で展示いたしました。やはり学生自身が選んだものは、ほかの学生さんにも好評で、本屋さんで本を選んでいるように、2冊3冊と借りていく姿も見られました。

また、今後も続ける予定ですので、機会があれば、あなたも参加してください。



学芸学部国文学科4年生

ふじわら さちこ
藤原 祥子

2・3年前でしょうか。選書ツアーについて書かれた新聞記事を目にしたことがありました。記事の詳細は覚えていませんが、図書館に入れる本を自分で選べるなんて単純な羨ましさと、学生が本棚の前で本を手をしている写真が載っていたのは記憶しています。

当日までにある程度選書する本の候補を決めていたものの、いざ本の前になるともっといい本があるんじゃないか、もっといろんな分野の本を入れたほうがいいんじゃないか、などと思うようになり、店の中を始終ウロウロ。何十冊と入ったかご片手に歩き回りました。

ここで私が選んだ本の中から2冊紹介したいと思います。まずは『裸者と裸者』。治安の悪化を辿る「応化」の日本。妹のメグと弟のリュウを養うため、学校にも行かず働く長男・海斗、7歳。しかし、ある日拉致され軍に身を置くことになった海人は、生きて帰るため銃を持つことに……。続編に『愚者と愚者』も発売されていますが、07年に著者・打海文三氏が逝去されたため、その先を読めなくなったことが残念で、いっそ出会わなければよかったと思った印象深い本です。

2冊目に紹介するのが、高田崇史氏の「QEDシリーズ」。ミステリものであるものの、探偵役になるのが薬剤師（しかも髪がボサボサで趣味が寺社巡り、そしてやたらと酒にも詳しい）。とにかくメインの登場人物が濃く、また歴史上の謎（例えば百人一首に籠められた呪い）も解明されていくのが特徴でしょう。因みに、図書館にはないのですが別作品の「千葉千波シリーズ」もお勧めです。

自分の選んだ本が図書館に並び、多くの人の手に取られる。これはきっと今しか出来ない体験でしょう。だからこそ経験できたことを嬉しく思います。ジュンク堂の本店だけあってお店の広さに、本の量に興奮しつつも選書の難しさを感じた1日でした。



ベストリーダー 2008

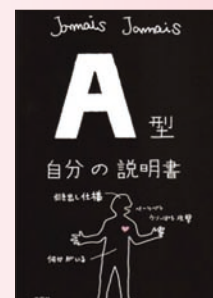
順位	書名	著者名
1	夜明けの街で	東野圭吾 著
2	ちちらん 乳と卵	川上未映子 著
2	A型自分の説明書	Jamais Jamais 著
2	B型自分の説明書	Jamais Jamais 著
5	ホームレス中学生	田村裕 著
6	ぐりとぐら（こどものとも傑作集：21）	なかがわりえこ 著／おおむらゆりこ 絵
7	図書館戦争	有川浩 著／徒花スクモ イラスト
8	人のセックスを笑うな（河出文庫）	山崎ナオコーラ 著
9	源氏物語 4（日本古典文学全集：15）	紫式部 著／阿部秋生、秋山虔、今井源衛 校注・訳
10	超速マスター！ Eメール・履歴書・エントリーシート成功事例集 '09年度版	細田咲江、上田晶美 著



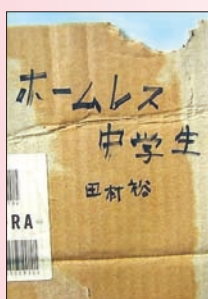
盆休明けに配属された派遣社員の秋葉は、不倫関係となった主人公に殺人事件の容疑者だと明かす。春、時効を迎えた0時すぎ、彼女は15年前の出来事を語りだす…



東京・台東区に暮らす主人公を39歳の姉と無口な娘が訪ねてきた3日間のお話。全編を通じて大阪弁だらけ。歌手でもある作者は、2008年に本作で芥川賞を受賞



「基本操作」「プログラム」「トラブル・故障したときは」と、章立ては恰もパソコンの操作入門書。最後の章には有名な物語の主人公をA型にしたシミュレーションも



著者は中2の1学期終業式直後に家財一切が差し押さえられて一家は離散、公園でホームレスに…。幼少期から、芸人としての相方・川島明と出会うまでの「自叙伝」



「このよでいちばんすきなのは／おりょうりすることたべること」野鼠ぐりとぐらは拾った卵で大きなパンケーキを焼き、森の仲間と食べたあと、卵の殻は捨てずに…

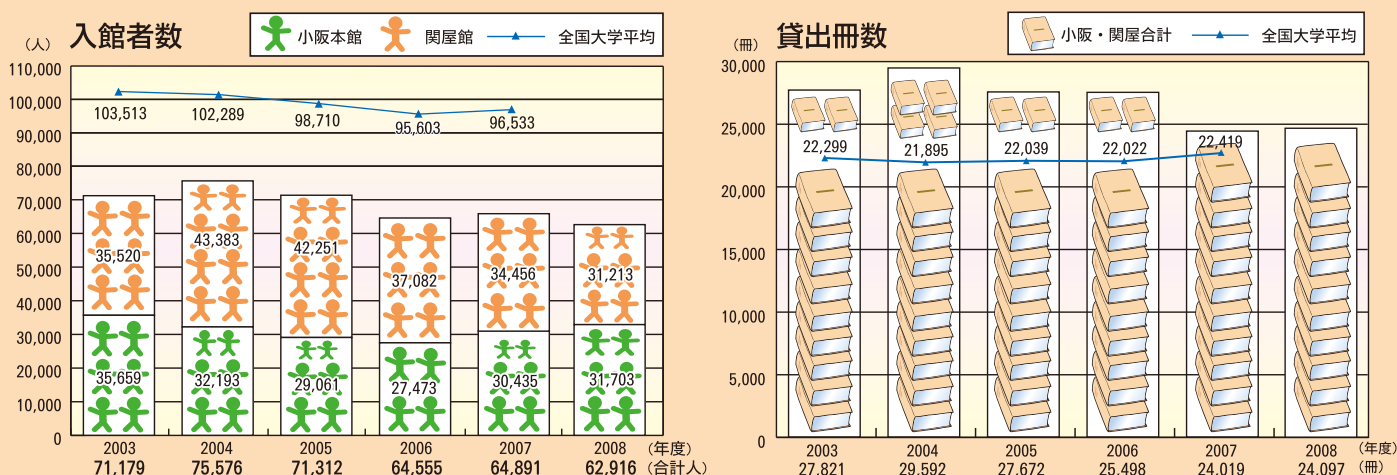


シリーズ全4冊の第1作。メディアの「良化」と、表現の自由由来する「図書館の自由」が対立し銃撃戦と法制度で争うようになった近未来の日本が舞台の恋愛小説

2008年4月から2009年2月までの貸出人数に基づいたランキングです。
(講義のテキストとして指定されているものは除外しています。)

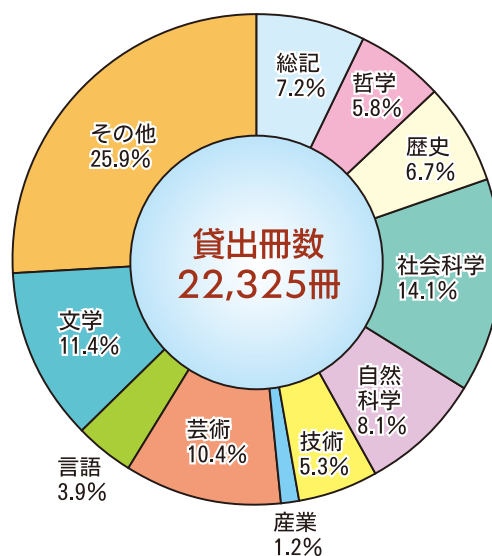
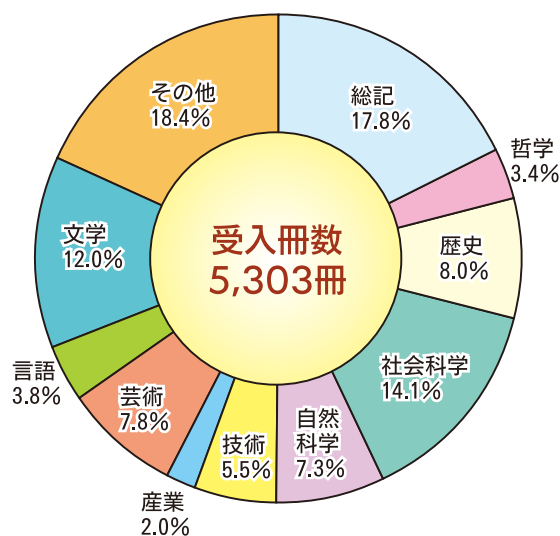
年度推移

(入館者数・貸出冊数は2008年4月から2009年2月末日までの合計)



入館者数は昨年度よりやや少な目に推移し、関屋館で減少を続けています。ただし、学生数が昨年度比93.7% (小阪97.7%・関屋84.0%) であるため、実質的には昨年度並みといえます。貸出冊数のうち学生の割合は72.4% (昨年度77.7%) で、学生一人あたりでは5.9冊台 (昨年度6.12冊) となる見込みです。

分野別



2008年度の受入冊数 (購入などにより新たに蔵書とした冊数) と貸出冊数の分野別割合です。一昨年度・昨年度と23%前後だった社会科学が13%台まで低下し、総記 (情報科学、図書館学、叢書など) が6.5%、歴史・文学が2.7%増加しました。“その他” には旅行ガイドブックや文庫本、資格・就職関係、視聴覚資料などが含まれ、貸出冊数の約4分の1を占めています。

はばたけ、知性。



こかげ



訃 報

1976年4月から9年間図書館長を務められた木村三四吾名誉教授が2008年4月9日亡くなりました。先生は内には蔵書の充実に、外には図書館建設に尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

『こかげ』第3号が上梓されました。今号の特徴は、自然科学系の先生方に執筆を依頼したこと、第2号で掲載された「自著を語る」が2編に増えたこと、そして、「選書ツアー」の企画の実施報告です。そして、今号においても、大学院生や学生の皆さんの積極的な寄稿や投稿の興味深い文章やイラストがにぎやかに誌面を飾り、内容豊富な『こかげ』となりました。石川義之館長はじめ執筆の皆さまに、心より御礼申し上げます。（図書館報編集委員長 心理学部臨床心理学科教授 鳥山平三）

インテリアデザイン学科のガーデニング演習で小阪図書館長瀬川沿いに花壇ができました。この館報で中も外も変わりゆく図書館を感じていただけたでしょうか。

（図書館・中井康子）

前号に続いての編集委員も今号で最後です。創刊号が12Pで、4Pずつ“肥えて”きました。次号が何Pになるのか実に楽しみです。

（図書館・糸野泰輔）

大阪樟蔭女子大学図書館報『こかげ』第3号

発行日 2009年4月1日

編集 大阪樟蔭女子大学図書館報編集委員会

発行 大阪樟蔭女子大学図書館

小阪本館 大阪府東大阪市菱屋西4-2-26 TEL.06(6723)8182 FAX.06(6723)8387

関屋館 奈良県香芝市関屋958 TEL.0745(71)3158 FAX.0745(71)3148

ホームページ <http://library.osaka-shoin.ac.jp/>